



デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.60

Newsletter of Gunma Museum of Natural History 2014.夏

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。

第46回企画展 **むし虫ウォッチング2**
～潜入!昆虫ワールド～

2014
7.12(土)▶8.31(日)

写真:野口強志

昆虫ワールドへようこそ。今回はカブトムシとアゲハの約100倍の大きさの模型を制作しました。人と昆虫の大きさが逆転する世界を実感して下さい。世界最大のチョウ、アレキサンドラトリバネアゲハや20cmを超えるマダガスカルオオトビナナフシなど巨大な昆虫の標本も多数展示しています。また寄贈して頂いた収蔵資料を公開します。さらに昆虫の飛び立つ瞬間をとらえたスーパースロー映像と写真、虫の目レンズや深度合成などの特殊な方法で撮影した昆虫の写真を紹介しします。是非、昆虫ワールドをお楽しみ下さい。

講演会 「働かないアリはなぜいるのか」

■講師:北海道大学大学院農学研究院 准教授 長谷川 英祐

■日程: 7月13日(日) 13:30～15:30 ■会場:当館学習室 ■定員:100名 ■参加費:無料

講演会 「～スーパースロー映像に見る昆虫の世界～ 虫たちはこんなふう動いていた!」

■講師:昆虫写真家 高嶋 清明

■日程: 8月3日(日) 13:30～15:30 ■会場:当館学習室 ■定員:100名 ■参加費:無料

自然教室 「むし虫 キャッチング」

■日程: 7月27日(日) 13:30～16:00 ■会場:当館実験室 もみじ公園内

■定員:30名 ■参加費:50円(保険料)

※申込方法は、各イベント開催日の一ヶ月前の9:30より電話で受付(先着順)。

展示
詳解

第46回企画展 むし 虫 ウォッチング2 深度合成画像



クロボシタムシの一種



チリクワガタ
(写真:腰高直樹 2点とも)

昆虫のような小さいものを撮影した場合、得られる画像は一部にしかピントが合いません。そこで、複数の画像をデジタル画像処理によって合成して1枚の画像にする技術のことを深度合成と言います。カメラを1mm単位でずらしながら撮影した画像を複数枚用意します。焦点深度合成ソフトを用いてそれぞれの画像からピントの合っている部分を抽出します。そして焦点深度合成ソフトがそれぞれの画像のピントの合っている部分を合成します。すると複数の位置にピントが合っているように見える画像が得られます。少ないもので20枚、多いもので70枚の画像を合成しています。表面がざらざらした昆虫は比較的上手くいきますが、金属光沢のあるものは深度合成が難しいです。

(学芸係 高橋 克之)

自然のコラム ミヤコタナゴ

ミヤコタナゴ(*Tanakia tanago*)は日本の魚類学の父としても知られる東京帝国大学の田中茂穂博士によって東京・小石川にある東京帝国大学附属植物園(当時)の池で見つかった2個体をもとに1909年に新種のタナゴとして報告されました。見つかった池ではミヤコタナゴは非常に希な存在でした。同じ池には当時ごく一般的に見られたタナゴの仲間も生息していて、両方を区別せず単に「タナゴ」と呼ばれていたことが記載論文に記されています。



ミヤコタナゴはかつて関東地方の各県に生息していましたが、現在では野生個体の大半は絶滅してしまい、わずかに千葉県と栃木県で野生個体の生息が確認されているに過ぎません。環境省レッドデータでは絶滅危惧IA類に指定されています。群馬県では城沼(館林市)でかつて生息していたことが確認されていますが、1949年に捕獲されて以降の記録はなく、群馬県内では絶滅したと考えられています。ミヤコタナゴは1974年には国の天然記念物に指定され、1994年には国内希少野生動物種に指定されています。そのため採集、飼育、移動などが禁止されています。当館では2010年4月に閉鎖された群馬県水産学習館より引き継いでミヤコタナゴの飼育・展示を行っています。

タナゴの仲間は生きた二枚貝に産卵するという変わった繁殖生態を持っています。繁殖期になるとメスの肛門あたりから、まるで細い糸のように見える産卵管が伸びてきます(写真の右下の個体)。この細長い産卵管を使って、二枚貝の内部に卵を産みつけます。

(学芸係 木村 敏之)

光るキノコ 上野村地域学術調査より

博物館では開館以来、3カ年計画で群馬県内の自然史調査を実施しています。平成23年から25年度は上野村を調査地とし、報告書(第6号)を今年の3月に発行しました。私が担当したのは大型菌類です。菌類と一言でいっても「カビ」「キノコ」「酵母」と様々な種類があります。また、大型と言っても漠然としています。今回の調査で対象とした大型菌類は、肉眼で確認できる大きさのキノコです。

タイトルにあります、光るキノコとしてよく知られているものとしてツキヨタケがあります。ツキヨタケは食用のムキタケによく似ているため、誤って食べて食中毒になる事例の多いキノコです。このツキヨタケは比較的標高の高いところで一般的に見られるキノコです。他にも光るキノコは数種類ありますが、今回の自然史調査で採集したのはヤコウタケ(*Mycena chlorophos*)というキノコです。

ヤコウタケはラッシタケ科に属するキノコで、この科のキノコは傘と枝をもち、キノコらしい形をしています。小振りで弱々しい印象のキノコの仲間です。ヤコウタケの子実体(いわゆるキノコの部分)は、傘の径が7~27mm、柄の長さが10~23mmと小さく、発光性のある子実体として知られています。実は、このヤコウタケは暖かい地方に発生する南方系のキノ

コとして知られているのです。有名なところだと八丈島ではヤコウタケの発光する様子を観光として案内しています。

ヤコウタケの分布は、原色日本新菌類図鑑I(今関・本郷、1987)によると宮崎県に産するとあり、北陸のきのこ図鑑(池田、2005)によると熱帯性・日本(石川、関東以西の太平洋側、小笠原)と記述されています。しかし、1967年7月15日に岩手県宮古市でヤコウタケの採集記録がある(サイエンスミュージアムネット)ことから群馬県内での発生は十分に考えられます。ヤコウタケの子実体は小さく、意識して採集しないと見落とされるキノコです。そのため、これまで群馬県内での採集記録がなかったのかもしれませんが。

今回の調査でヤコウタケを採集したのは、2013年7月2日でした。4個体の子実体が広葉樹の切株に発生していました。また、約1ヶ月後の8月4日に同地点を調査したときは、残念ながら確認できませんでしたが、約20m離れた広葉樹倒木上に新たに2個体の発生を確認しました。南方系とされているヤコウタケが高緯度で、しかも標高の高い上野村で確認されたことから、今後も同地点とその周辺でのヤコウタケの発生状況を継続調査していくことが必要と感じています。

(学芸係 篠原 克実)



写真1 ヤコウタケ *Mycena chlorophos* 2013年7月2日撮影



写真2 ヤコウタケの発光の様子(露出15秒で撮影)

県内で分布を広げるチョウ ホソオチョウ

和名の由来になる長い尾状突起をもち、ひらひらと舞います。オスは白色、メスは黄白色ですが黒条が発達して黒色に見えます。1978年に東京都で最初に発生が確認されました。その後、東北から九州に至る各地で記録されています。1990年代には北関東でも確認されました。県内ではみどり市に定着しています。ホソオチョウは飛翔力が弱く移動性もほとんどないことから韓国から人為的に持ち込まれたと考えられています。国内での分布拡大も人為的な放蝶と推定されています。外来生物法によって要注意外来生物に指定されています。幼虫の食草はウマノスズクサで在来種のジャコウアゲハと同じです。ジャコウアゲハへの影響がでているという報告もあります。ホソオチョウは美しいチョウなので保護する動きがあるなど困った問題も生じています。

(学芸係 高橋 克之)



オス

メス



ホソオチョウの生息地



ウマノスズクサに産みつけられたホソオチョウの卵

大人の自然史倶楽部

子どもたちの瞳がキラキラしているのは、日々ワクワクドキドキしながら様々なことを学んでいるからではないかと思うことがあります。学ぶことは何よりも楽しいと思いませんか。

新しいことを知る、見つける、わかる喜びを、大人の方にも味わってみたいという願いからこの講座は始まりました。昨年度までは、チャレンジ講座という名称でしたが、さらに楽しく、気軽に参加してもらえる講座にしたいと、今年度から『大人の自然史倶楽部』という名称に変わりました。

この講座の特徴を3つご紹介します。

一つ目は、「少人数」です。きめ細かなサポートができるように、そしてじっくりと学んでもらえるように、定員は6名です。

二つ目は、「活動重視」です。必ず基本について学んでから、フィールドに出て活動します。話を聞いて理解したことや写真・標本等で学んだことを、実際に自分でやってみる、実物を見て、触って、確かめてみる活動を行います。そのために、3日間の講座になっています。

三つ目は、「安心」です。大人になると、気になることや疑問に思うことがあってもなかなか尋ねにくいものです。でもご安心ください。当館の講師陣は、知りたい気持ちに寄り添い、わかるまで丁寧にお答えします。何でも安心してご質問ください。



『デジタル一眼レフ ネイチャー・フォト入門コース』が下記の日程で予定されています。

10月 1日(水) 13:30 ~ 15:30 講習

10月 8日(水) 9:30 ~ 15:30 講習・野外活動

10月 15日(水) 9:30 ~ 15:30 講習・野外活動

これから植物や昆虫の写真を始めようとする人のための入門講座です。興味のある方は是非ご参加ください。学ぶ楽しさを思う存分味わっていただくと幸いです。(教育普及係 箱田 陽子)

利用案内

■開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)

■休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)

■観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみ開催	510円	300円
第46回企画展開催時 (H26.7.12～8.31)	720円	410円

※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。

※有料者20名以上は団体料金で2割引となります。

群馬県立自然史博物館だより
Demeter No.60

編集・発行 群馬県立自然史博物館
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250
ホームページ
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>



Demeterは、地球環境保全のため
植物油インクを使用しています。